

KOMORO

MI・RA・I

チャレンジャー☆



もう 10

秒台は夢じゃない

No.2

小諸高校 「伊藤君」のチャレンジ

「こもろみらいチャレンジャー」は、市内の高校に通う学生の頑張る姿に注目し紹介していきます。

企画課 情報戦略推進係

陸上を始めたきっかけは、小学生のときだった。学年で、いつも二番目に速かった伊藤君は、どうしても一番になりたくて、地域のクラブに入り、陸上を始めたという。陸上種目では、主に100mと200mを専攻していて、中学3年生のときの大会で県2位になった実力者。タイムがどんどん伸びていき、このまま順風満帆な陸上人生になるかと思われた。

「中学生の最後の大会が終わり、高校の陸上部に入部するまで、練習をしなかったため、タイムが落ちてしまった。その後、高校の部活もちゃんと練習したのにも関わらず、いつまでもタイムが伸びず、周りの人がどんどんタイムが良くなるこ



取材協力 伊藤 司能さん
(高校3年生)
持ち味は、後半に伸びる強い走り

とに焦りしかなかった。」と伊藤君は話した。高校2年生になって、やっと、タイムが良くなってきたころ開催された新人戦では、大会中に「肉離れ」を起こし、治療に1か月を要し練習ができない期間もあった。それでも陸上を続けて来られた理由は、仲間の支えがあったからだという。挫折から這いあがった伊藤君は、見る見るうちに成長していき、今では部長も務める。

直近の長野県大会の100m種目では、自己ベストである11秒00をたたき出し、5位になり、北信越大会へと進んだ。

「いろんな挫折も経験し、部長も経験したなかで、ここまで来られたのも周りのサポートのおかげ。同じチームの仲間が最大のライバル。いつも練習で意識し合っていて高みをめざせた。北信越も悔いなく走りきり、10秒台を絶対出す。仲間とともに走る4×100mリレーも十分にインターハイが狙えるレベルにある。頑張りたい。」と笑顔で話す伊藤君の闘志は燃えている。

